

【長射程ミサイルの配備撤回を求める声明】

突然の、長射程ミサイルの健軍駐屯地配備強行に対して、満身の怒りを込めて抗議し撤回を要求します。健軍駐屯地への長射程ミサイル配備が明らかになって以降、地元住民を中心に、計画の撤回あるいは説明会開催要求が繰り返されたにも拘わらず、一顧だにしない国・防衛省の態度への怒りです。

他国の基地などを攻撃する「反撃能力」を持つミサイルの配備が、抑止力となるどころか攻撃目標となることが、今回のイスラエルと米国によるイラン攻撃、その後の中東地域への戦域拡大の中であらためて明らかになりました。小学校をはじめ、さまざまな市街地が、ミサイルによって破壊される悲惨な映像は、戦争の愚かさを強烈に私たちに伝えています。

ミサイルが配備される健軍駐屯地の隣には熊本市民病院があります。周囲には小中学校・高等学校・支援学校・保育園など多くの教育施設があります。いわんや数知れない平穏な住民の暮らしがあります。長射程ミサイルの配備によって、このような平和な生活が一瞬にして破壊されるのではないかと、熊本に住む私たちは懸念しています。

報道は、長射程ミサイル搬入について、熊本県にも熊本市にも一切の事前通告はなかったと伝えています。小泉防衛大臣は「九州防衛局に相談窓口を設けている」あるいは「ウェブサイトにてQ&Aを掲載している」と述べるのみで、地域住民を中心とした切実な説明会開催を拒否しています。「国を守る」「国民の命を守る」というのであれば、自治体へのきちんとした説明、そして生命に不安を感じている周辺住民への説明会は欠かせないはずです。

この間、南西諸島へのミサイル基地建設や駐屯地の増設が国民の目に見えないところで進められてきました。高市内閣は今、殺傷能力を持つ武器の輸出を容認しようとしています。そして専守防衛を逸脱する敵基地攻撃能力を持つ長射程ミサイルを、市街地に配備しようとしています。私たちは戦争につながるこのような暴挙を許すことはできません。

健軍駐屯地への長射程ミサイルの配備撤回を、住民説明会の開催を強く求めます。

2026年3月8日
社民党熊本県連合 代表 今泉克己